

オープン市場短信 (2015年9月)

2015.9.4

◆ 8月のCP市場動向

8月のCP（短期社債）月末残高は15兆9386億円と、13か月連続前年同月比増となった。しかし、8月は全般的に各業種の資金調達ニーズが低下し、前月比では約5802億円減少する動きとなった。一般事法で3927億円、その他金融で1691億円、金融機関で435億円とそれぞれ減少した。ABCPでは、新規銘柄のまとまった発行（1300億円）があった事もあり、251億円の増加となった。

発行レートの動きについては、最上位格付け銘柄では0.07%台前半～0.09%近辺、a-1格の一般事業法人では0.085%台近辺から0.09%台での出合いが中心となった。また、投資家ニーズの弱い9月末期日物や2週間未満のショートターム物では、0.100%前後の出合いが散見された。

【新発3M物の発行レート】

最上位銘柄（a-1+格）0.078%。一般事業法人（a-1格）0.0870%～0.1070%。
その他金融銘柄（a-1格）0.0868%～0.145%。

【業態別残高内訳】

（単位：億円）

業 態	8月末残高	7月末残高	増 減
一般事法	44,401	48,328	-3,927
その他金融	63,896	65,587	-1,691
金融機関	36,814	37,249	-435
政府系金融	1,400	1,200	200
銀行等	13,560	14,430	-870
証券	21,854	21,619	235
ABCP	14,275	14,024	251
計	159,386	165,188	-5,802

（注：買入消却分含む）

【格付け別の発行レート】

8月のCPLレートレンジ

(単位 %)

格 付	1か月	2か月	3か月
a-1+(一般事法)	0.0740% ~ 0.0900%	0.0770% ~ 0.0819%	0.0780% ~ ——
a-1(一般事法)	0.0850% ~ 0.1010%	0.0850% ~ 0.1100%	0.0870% ~ 0.1070%
a-1+(リース銘柄)	0.0849% ~ 0.0899%	—— ~ ——	0.0780% ~ 0.0860%
a-1(リース銘柄)	0.0888% ~ 0.1050%	0.0870% ~ 0.1350%	0.0868% ~ 0.1449%
a-2	0.1000% ~ ケ0.25%	0.1150% ~ ケ0.25%	0.1000% ~ ケ0.25%

《CPオペ》

CP買入オペは、6・18・26日と各々3500億円にて実施された。8月中の発行が伸び悩んだことや応札可能銘柄が限られたこともあって、応札額は回を追うごとに低下する動きとなった。按分レートについては、レポレートの高止まりを受けCP現先レートが高水準で推移していたことが影響し、ほぼ横這い圏内で推移した。

【月末オペ残高：2兆2955億円】

日銀CP等買入れオペ実績

(単位:億円)

実施日	実行日	オファー金額	応札額	落札額	按分・全取	平均落札	按分比率
8月6日	8月11日	3,500	8,495	3,486	0.085%	0.087%	14.5%
8月18日	8月21日	3,500	7,835	3,475	0.085%	0.089%	70.5%
8月26日	8月31日	3,500	7,358	3,484	0.084%	0.086%	73.3%

《ABCP》

ABCPの月末残は、新規銘柄のまとまった発行があり、前月比251億円増の1兆4275億円となった。前年同月比では、1375億円の減少であった。

《短期社債登録状況》

証券保管振替機構によると、8月末時点における発行登録企業数は合同会社スーパートラスト(ABCP)1~10が登録を行い、511社となった。通算の発行企業数は、合同会社スーパートラスト1~10が初発行を行ったことから、553社となった。

《CP現先市場》

現先(S/N)レートは、8月中もレポレートの高止まりの影響もあって、0.07%台半ばから0.09%近辺での出会いとなった。

◆ 9月のCP市場動向

9月のCP償還額は約3兆7300億円で、前年同月の償還額（約4兆800億円）をやや下回っている（除く、相対発行分・金融機関発行CP・ABC P）。

今月の発行動向は、一般事法では例年通り、中間期末の有利子負債圧縮目的で、月末償還物中心のショートターム物の発行を行うと思われる。既に、9月末償還は1兆3千億円強となっており、月中の発行を勘案すると2兆円前後となる見通し。一般事法の調達ニーズが弱まる中、投信中心に運用ニーズは強く発行体優位の状態となるだろう。

発行レートについては、投資家が敬遠する9月末償還物やショートターム物では、レート上昇地合いが予想される。一方、月末越えのロングターム物の発行案件に関しては、投資家の運用ニーズが強く低下地合いを予想する。

最上位銘柄は、0.07%台前半から0.08%台後半での出合いを予想する。一般銘柄では0.08%台前半～0.09%台後半で、発行量の多い銘柄では0.09%台半ばから0.10%台半ばでの出合いを予想する。その他金融・リース銘柄（a-1格銘柄）では、0.08%台後半～0.15%近辺を予想する。

《CPオペ》

今月は、3日・14日・25日と、計3回の入札が何れもオファー額5000億円にて予定されている（8月は、各回ともに3500億円）。3日のオペは、応札額が8556億円に止まったことなどを受け、按分レートは0.075%まで低下する動きとなった。14日のオペでは応札可能銘柄にもよるが、期末償還玉の売却ニーズも強いものの発行がさほど膨らまない状況でもあり、横這いから低下地合いを予想。25日のオペは、月末のオペ残高の積み上がりが少ないようであれば、オファー額の増額も見込まれる。加えて、投資家ニーズの強い期越物のみの応札になることや応札可能銘柄の発行減少も考えられることから、レートは低下地合いが予想される。

《CP現先市場》

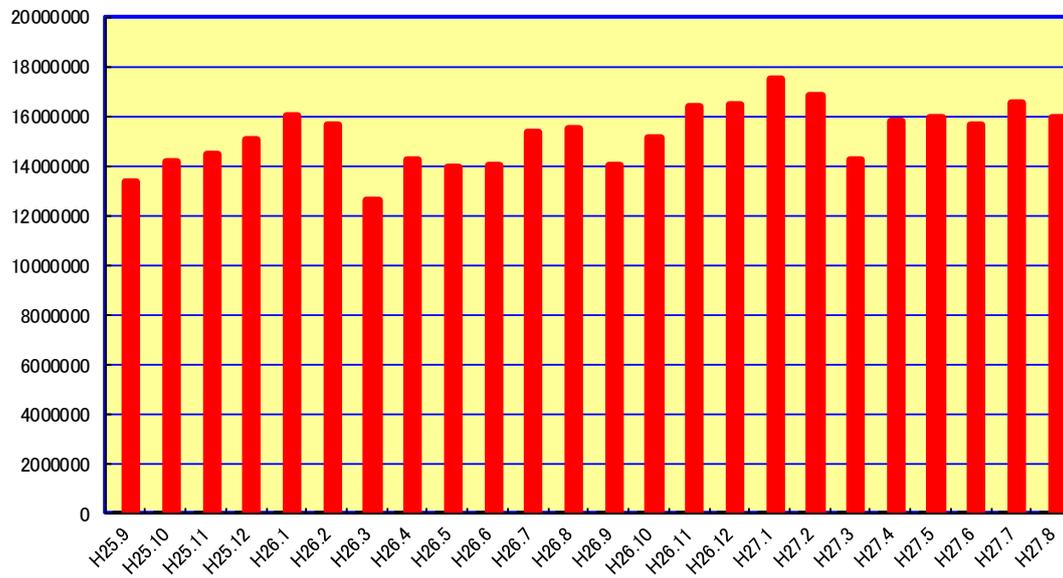
T/N物のレポレートは、0.03%～0.08%前後でのワイドレンジでの出合いが予想される。また、月末近辺では、マイナス金利での出合いも予想される。インターバンクレートは、0.07%台での動きが予想される。また、月末近辺では0.01%近くまで低下する動きも予想される。CP現先レートは、先月同様0.07%台～0.09%近辺での出合いを予想する。月末近辺の出合いでは、他市場に影響され大幅に低下する動きも予想される。

参考資料

短期社債月末残高 (25年9月～27年8月)

発行登録企業：511社（発行実績あり 553社）

(過去2年間の残高を表示)



8月末発行残高ベスト20

8月末発行残高上位20社

(単位:百万円)

	発行企業名	8月末残高	7月末残高
1	三井住友ファイナンス&リース	822,200	800,700
2	三菱UFJリース	817,600	843,200
3	三菱UFJモルガンスタンレー証券	773,300	762,200
4	東京センチュリーリース	623,000	620,300
5	みずほフィナンシャルグループ	500,000	500,000
6	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	485,910	497,670
7	大和証券	471,930	445,880
8	SMBC日興証券	425,200	421,800
9	JXホールディングス	404,000	442,000
10	日本証券金融	392,000	459,000
11	みずほ証券	371,900	390,300
12	芙蓉総合リース	348,700	350,200
13	JA三井リース	342,000	342,000
14	興銀リース	339,500	339,000
15	三菱商事	328,000	340,000
16	ジェイエフイーホールディングス	314,000	320,000
17	三井住友信託銀行	266,400	318,400
18	スタンダードチャータード銀行	262,500	292,500
19	ホンダファイナンス	236,000	238,000
20	ジャックス	235,500	230,000

参考出所 (株)証券保管振替機構

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性について保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長(登金)第243号

大阪本社 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋2丁目4番2号

東京本社 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1丁目2番3号

加入協会 日本証券業協会